

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習Ⅲ		必修	1	4	前期 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小沢 健一 他	C305	k-ozawa	金曜日 14:40~16:20		
授業の目的・概要	臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲにおいて診療場面を経験するにあたり、疾患から想定される障害像、様々な活動の際に必要な機能、能力やそれらを困難にしている原因の分析などの目線が必要となる。そのためには評価や治療の技術を習得しておかなければならない。この演習では、クリニカルクラークシップに基づいた実習を行ううえで必要となる、専門知識の定着と体系的理解、および、評価、治療技術、援助技術の習熟を目標とする。授業は原則、面接授業で実施する。				
学習上の助言	実習で求められる基礎知識を復習しておくとともに、ICFを用いた事例検討、臨床実習Ⅰで学んできた評価や治療を理解し、繰り返し評価、治療技術や援助技術を練習しておくこと。				
教科書	指定しない				
参考書	指定しない				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	臨床的思考を養い、作業療法評価・治療を検討できる			HSU (1) ~ (5)、OT (2)	
②	臨床に必要な疾患やその原因となる基礎知識を説明できる			HSU (1) ~ (5)、OT (1) (2)	
③	日常生活動作場面を観察し、その機能的な構成要素を説明できる			HSU (1) ~ (5)、OT (1) (2)	
④	臨床実習チェックリストの項目をおおむね模倣できる。			HSU (1) ~ (5)、OT (1) (2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
<p>授業の方法：演習を中心に行う。</p> <p>学習内容等：</p> <p>①技術の一つの単位として学習を進める 「ROM 測定」、「質問紙を使用した面接」等のように技術項目ごとに対象者を担当し、より実践的な技術を習得する。</p> <p>②見学し、模倣し、実践する 全ての技術項目について、「見学」「模倣」「実施」の段階を踏むことを原則とする。 見学 (説明)：学生は対象者に行われている作業療法の内容や目的などについて、指導者から説明を受けながら臨床場面を想定する。情報収集など、臨床場面以外についても説明を受け、やり方を学ぶ。 模倣 (前期)：見学経験をもとに、指導者の手本を模倣し、その場で指導を受けながら実際に取り組む。 模倣 (後期)：指導者は徐々に手を引き、必要なだけの援助となる段階である。 実施 (見守り)：学生が十分に経験を重ねたうえで、実習指導者の見守りのもとであれば、一般的な症例に対するその技術や評価のリスクを概ね把握したうえで行えるレベルである。あくまで模倣の延長線上にあり、学生が指導者から独立して行うものではない。</p> <p>③できることから実践する CCS 型臨床実習ではできる技術の一つの単位として複数の対象者を担当し、十分模倣したうえで実施に至る。評価・治療の順序性は必要なく、より多くの技術項目を経験し、習得を目指すことになる。</p> <p>学生はスキル修得のために、以下の 4 点を日々繰り返すことが必要になる。</p> <p>①CCS チェックリストで自分の経験状況を確認する。 ②指導者とのディスカッションで臨床での考え方を学ぶ。 ③自己学習を通じて、経験したことと知識を結びつける。 ④対象者の安心・安全に配慮し、対象者の心情や回復に関心を持つ。</p> <p>学習者である学生は、学習すべき各技術項目の実施を任せてもらえるよう、主体的に取り組まなければならない。不明瞭な点は指導者に確認し、理解を深めるための自己学習が必要である。</p> <p>CCS チェックリストの利用の仕方： 日々経験したことを記録し、原則として当日の夕方に提出して指導者からフィードバックを受ける。 見学や説明を受けた場合は「見学」にチェックを入れる。指導者の指導のもとにそれを模倣して行った場合は「模倣 (前期)」に回数 (正の字) を記入する。「模倣 (後期)」「実施 (見守り)」の認定は指導者が行う。一般的な症例においてその検査、治療及び指導をリスク管理も含めて行えるようになったら「実施 (見守り)」とし、その日付をチェックリストに記入する。</p>					

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計	
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他		
		0	0	0	0	100	100	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	0	0	0	20	20	
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	10	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	50	50	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	20	20	
評価のポイント			評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
評価方法	行動目標							
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	CCS チェックリストに基づき実技を行う。 この時の取り組み、作業療法技術、創意工夫をルーブリックにて評価する。					個々の項目に対して担当者が、その都度フィードバックを行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲの履修には、演習Ⅲの単位を取得していることが必要である。 作業療法演習Ⅲは、集中講義となる。4/19-5/14 日程で行う。</p> <p>担当教員：◎中西康祐、小沢健一、山鹿隆義、榎田哲弥、浅野克俊、池谷政直、海保享代</p> <p><b>教員の実務経験：</b>本科目を担当する教員は作業療法士として5年以上の実務経験を有する者で構成している。 <b>実践的授業の内容：</b>各教員の臨床経験を踏まえて、学生は CCS チェックリストに基づき、評価、治療、援助技術の習得を実践に近いレベルで経験する。</p> <p>大学構内での授業受講に際して、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 問題がある場合は授業の参加を認めない。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によってシラバスの変更の可能性がある。</p>								